

農業後継者育成基金事業

令和5年度農高・農大就農促進対策事業

事業主体名 鹿児島県立薩摩中央高等学校

1 目的

現在、本校卒業後の就農率は極めて低く、農業に関する様々な体験や講話等により、就農に向けた意識付けが必要である。

ア 農家実習

先進的な農家等で実際の農業を体験させ、農業技術の習得及び経営的な感覚を学ばせる。

イ 先進農家視察研修・・・県内の先進的な農家及び農業関連施設の見学で就農意欲の醸成を図る。

ウ フラワーアレンジメント研修・・・先進農家を招いての研修を受けることで連携を深め、技術向上を図る。

エ 営農の門出を励ます会・・・本校を卒業し、自営する者、研修後自営を志す者の門出を祝し、その意志を貫くよう励ます。

2 実施状況

(1) 農家実習

さつま町・薩摩川内市の13事業所及び農家で生物生産科2年生を対象に3年ぶりに農家実習を4日間行った。

慣れない環境で初めて行う作業もあり、生徒たちは戸惑うこともあったが非常に勉強になったようで、就農に対する意識が向上した。



(2) 「先進農家視察研修」の実施

12月22日に先進農家視察研修を実施した。農業大学校及びJAさつま日置果樹選果場を視察した。農業大学校では施設見学や学習内容を聞き、農業大学校について詳しく知ると同時に進学意識が向上した。JAさつま日置果樹選果場では初めての選果場見学であり、農業に関する知識が深まり就農に対する意識が向上した。



(3) 「営農の門出を励ます会」の実施

2月15日に農業大学校及び農業関連事業所へ就職する者を励ます会を行った。それぞれの将来についての抱負を述べ、より一層志を強くする会となった。また1・2年生にとっては先輩方の抱負を聞き、農業大学校や農業関連事業所への興味関心が深まったようである。



3 今後の課題及び取組

非農家の生徒が大半を占める中、講演会や視察研修を継続的に行うことで、農業に興味・関心を持たせたい。また、先進地農家での実習や研修を充実させ、一人でも多くの生徒の就農を促していきたい。